

# スリザー

2007(平成19)年11月6日鑑賞<東宝東和試写室>

★★★



監督・脚本=ジェイムズ・ガン/出演=ネイサン・フィリオン/エリザベス・バンクス/マイケル・ルーカー/タニア・ソルニア/グレッグ・ヘンリー (東宝東和配給/2006年アメリカ映画/96分)

……謎の地球外生命体襲来！ 叫ぶ前に口をふさげ！ と聞けば、巨大なめくじ「スリザー」のイメージもバッチリ……？ SFホラー映画の大好きな人は必見だが、後半はゾンビ映画定番のようなシーンもいっぱい、マンネリ気味……？ 私は2人の美女の活躍を楽しみに観たが、こんな映画を料金を払って観るべきか、観ざるべきか、それはあなたのお好み次第……。



## スリザーって一体ナニ……？

この映画のタイトルをみても何のことかサッパリわからないし、SFホラー映画と聞いても、さらにわからない。そこで調べてみると、スリザー (SLITHER) とは、「ずるずると (不規則に) 滑る、(蛇のように) 滑るように進む」という意味。つまり、少年の頃からホラー中毒だったという、この映画を監督・脚本したジェイムズ・ガン監督が考え出したのが、ずるずると滑る地球外生命体だ。「ずるずると滑る」という言葉から想像されるのは「なめくじ」だが、まさにこの映画の主演は大型のなめくじ……？

プレスシートには、「彼らの侵略は、『口』から始まった」「叫ぶ前に、『口』をふさげ!!」と書かれてあるから、ひょっとしてこいつらは人間の口から体内に侵入し、悪さをするの……？ ああ、考えただけでも気持ち悪い。すると、映画を観ればもっと気持ち悪い……？ さあ、そこであなたは料金を支払ってまで、こんな気持ち悪い地球外生命体を観たいと思う……？ もし、あなたがそう思わなければ、あなたはSFホラー映画ファンとは認めてもらえないが……。

## こんな役はあまりやりたくない……？

映画には悪役がつきものだが、この映画ではその役をグラント（マイケル・ルーカー）が……。もっとも、彼は元々の悪人というわけではなく、運悪く隕石が落ちてきた現場を通りかかったという理由だけで、「ある物体」からターゲットにされたにすぎないから、ある意味お気の毒……？

むしろ、夜遅く彼をそんなところに散歩させたのは、最愛の妻スターラ（エリザベス・バンクス）がベッドの中で彼の求めを拒んだためだから、悪いのはスターラ……？ もっとも、それでイライラしたグラントが散歩に出かけたのは仕方ないとしても、昔の女友達のブレンダと再会して飲みあかし、挙げ句の果てに思い出のつまった森の中の散歩に出かけたのだから、やっぱりグラントも悪い……？

まあ、どちらに非があるかはともかく、「ある物体」からターゲットにされたグラントはかわいそう。その日を境に彼の身体には重大な異変が……。さて、その異変とは……？ それは映画を観てのお楽しみだが、俳優としてはこんな役はあまりやりたくないもの……？

## パーディと共にスターラが大活躍……

他方、まともな主人公（？）として登場するのは、警察署長に昇進したばかりのパーディ（ネイサン・フィリオン）ともう1人、かつてパーディの恋人だったスターラ。なぜこの2人が別れ、スターラはグラントと結婚することになったのか……？ この映画は恋愛ものではないからその詳細は描かれていないが、スクリーン上での2人の呼吸の合い方をみれば、なるほどと思えるし、事件が解決した後の2人の将来も楽しみ……？

パーディを演じたのは、たまたま11月1日に観た『ウェイトレス～おいしい人生のつくりかた』（07年）で、ヒロインの相手役となる産婦人科医を演じていた俳優ネイサン・フィリオンだが、パーディは警察署長としてまずまずの活躍を。

しかし、それ以上に大活躍するのがスターラ。それは、問題の発端が自分にあると自覚しているせいもある（？）し、グラントを説得するのは自分しかないという自負心があるため……？ そこで、あるシーンでは「やっぱり女は怖い」と言わしめるような派手な活躍をするし、ハイライトシーンでは、白いスリッパ姿の下につけた下着

の中に武器を忍ばせ、甘い言葉をささやきながらグラントの顔面に迫っていくという大胆な行動を……。もっとも、その一刺しで倒れてしまうほど巨大化した(?)グラントはヤワではないから、グラントの反撃を受けて、スターラは大変な目に遇うのだが……？

## 後半はゾンビがうようよ……

私はもともとホラー映画は好きではないから昔はほとんど観ていなかったが、映画評論を書くようになってからは、半分義務感で結構たくさん観ている。昔の中国のキョンシーはかわいかった(?)が、最近のゾンビや『バイオハザード』シリーズの「アンデッド」など、原因不明のウイルス感染によって生まれてくる人間の化け物は何とも気味の悪いもの。

ちなみに、少年の頃からホラー映画中毒だったというザック・スナイダー監督が創り出した映画が『ドーン・オブ・ザ・デッド』(04年)だったが、これは「『28日後…… (28DAYS LATER)』とよく似たホラー映画。二番煎じの感もあり、ラストはちょっといただけない」ため、私の評価は星2つ(『シネマルーム6』317頁参照)。これに対して『28日後… (28DAYS LATER)』(02年)は、私の評価では星4つ(『シネマルーム3』236頁参照)。

『スリザー』がオリジナリティを保っているのは、前半の大型なめくじの攻撃シーンまでで、スリザーが口から体内に入った人間はみんなゾンビになってしまうから、後半はゾンビがうようよする既にこれまで何度も観てきたシーンがいっぱい……。

## なぜか『ブラザーズ・グリム』を思い出したが……

マット・デイモンとヒース・レジャーがグリム兄弟となり、モニカ・ベルッチが「眠れる森の美女」となった(?)、テリー・ギリアム監督の摩訶不思議な映画が『ブラザーズ・グリム』(05年)だった(『シネマルーム8』286頁参照)が、『スリザー』の後半になると、なぜか私はこの『ブラザーズ・グリム』を思い出すことに……。

それは、最初は身体に湿疹が出てくるだけの異変だったグラントが、犬や牛の肉を食い続けているうちにどんどん肥大化するとともに、『スパイダーマン2』(04年)で敵役となるDr. オットー・オクタヴィウスが背中にもつ人工知能を備えた4本のアームのような、ケツタイな手足(?)を備えてくる姿を見せてきたため。『ブラザー

ズ・グリム』でモニカ・ベルッチが変身していく姿も異様だったが、もちろんこちらは美的センスを尊重し、ファンタジー色いっぱいのものであった。しかしグラントの場合は、思いきり気色悪い姿にして登場させている(?)から、観ていてあまり気持ちのいいものではない。やっぱり、こんな映画はほどほどに……。

## 女子高生も強し……？

映画前半は全く登場しないのに、後半になって準主役級として登場するのが、足を伸ばしてゆったりとバスタブに浸かっているところをスリザーに襲われる女子高生カイリー（タニア・ソルニア）。日本でも長風呂好きの女の子が多いようだが、カイリーはそんな1人で、お母さんから「いい加減にフロからあがって寝なさいよ」と言われても、それを完全に無視し、イヤホンをつけて音楽を聴き始める始末。そんな無防備な彼女の股間を目指して、大型なめくじが……。プレスシートにはそんな写真がデカデカと載っているから、興味ある男性諸氏は是非……？

危機一髪でその攻撃を逃れたカイリーだったが、スリザーはすぐに口の中に侵入。それを何とか両手で引っ張り出すことに成功したカイリーは、次々と襲ってくるスリザーをやっつけながら避難したが、かわいい妹たちや両親は既にスリザーに入り込まれた後。2階のベランダから飛び降り、車の中に逃げ込んで何とかロックしたものの、何とキーがさし込まれていなかったから車は動かない。そんな中、車の外はスリザーでいっぱいになったうえ、ゾンビたちが窓ガラスをたたき割ろうと大きな石をもってやってきたからもうはや絶体絶命……？

そこに現れた正義の味方はもちろんパーディだが、以降カイリーはパーディと共に結構大変な働きを見せることに。パーディの部下のおじさん警官たちや女性警官が次々とゾンビに変わっていく中、カイリーは最後まで人間でいることができるのだろうか……？

2007(平成19)年11月8日記